



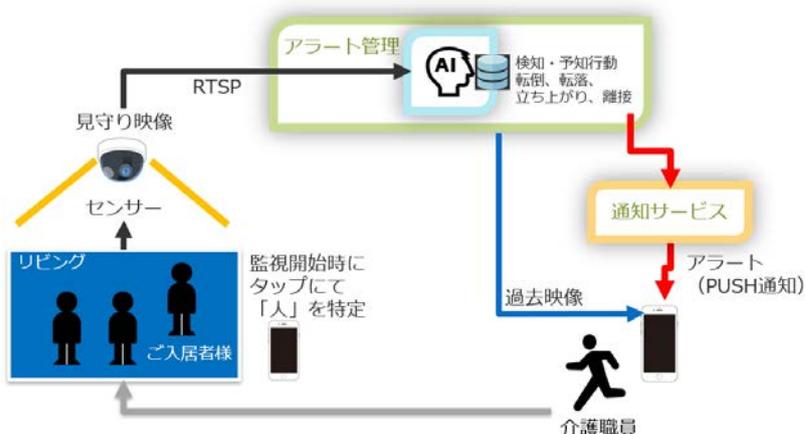
介護施設向けAI検知システム構築に関する連携開発報告

株式会社IGPIビジネスアナリティクス&インテリジェンス(代表取締役CEO:川上登福、以下「BAI」と)、株式会社クシム(東京都港区、代表取締役社長:中川博貴、以下「クシム」)、東京大学大学院 工学系研究科技術経営戦略学専攻 松尾豊教授の研究グループ(以下「松尾研究室」)、株式会社Olo(東京都文京区、代表取締役CEO:川合健斗、以下「Olo」)、社会福祉法人善光会(東京都大田区、理事長:梅田茂、以下「善光会」)は、AIを用いた介護施設向け検知システム開発を連携して進めてまいりました。この度、その成果についてご報告いたします。

本連携開発では、クシム、松尾研究室、Olo、BAIの4社の技術力・知見を組み合わせることで、善光会が展開する複合福祉施設「サンタフェガーデンヒルズ」に入居する入居者の行動をAIによって認識・分析し、転倒事故防止等に寄与できるシステムを連携して開発してまいりました。

1年間という連携開発の中で、松尾研究室、Olo、BAIの3社で連携し、善光会による全面的な実証協力、アドバイスのもと、介護現場の映像データや入居者の転倒、転落等の事故についての様々なケーススタディをシミュレートし、それら事故前の一定行動をディープラーニング等のAI技術を用いて検知し、介護職員の持つスマートフォンアプリへアラートを通達する仕組みを開発することに成功いたしました。

具体的には、アラート管理システムに送られる見守りカメラの映像データから、AIが特定の危険行動を検知し、介護職員が持つスマートフォンアプリへ通知します。また、事前に見守り対象の入居者を特定しておく仕組みも実装しており、入居者の状態によって数種類の異なるアラートを通知することにも対応しました。このAIによって、介護職員は、転倒、転落等の事故発生直後に素早く駆けつけることが可能になり、加えて、通知されるアラートから事故の内容および想定される対処を事前認識することにより、発生現場で迅速な介護行動が可能になります。



今回の連携開発は、超高齢社会の日本において、介護施設に潜んでいる様々な事故等の危険の未然防止、迅速対応、及び介護職員の業務負担軽減を目的としております。この度、その成果として介護職向けAI 検知システムを提供出来たことは、介護業界全体にとって大きな前進に貢献するものと考えております。

本連携開発の成果を活かし、今後も実社会にAI技術が生きるユースケースを積み上げてまいります。

(本件に関するお問い合わせ先)

株式会社IGPIビジネスアナリティクス & インテリジェンス

川上

TEL: 03-4562-1530

e-mail: info@igpi-bai.co.jp